「海部元首相のルーツ徳島の海部一族であつた」

（1990年1月13日徳島新聞より）

家系図学会員、与那嶺正勝さんは徳島市の植渕一さん（キョウエイ社長）の依頼で「海部元首相と徳島の海部という地名は関係があるのではないか」と研究をすすめられ海部家の了解を得て徳島県と愛知県内の古文書、墓などを手掛かりに調査研究をした。与那嶺さんによると、海部元首相の曾祖父は漢学者の海部昴蔵（のち久蔵）昭和3年6月22日、88歳で死去＝で、代々、久蔵を名乗つていたことはわかつているが、その以前については系図が戦災で焼失、はつきりしていない。一方、海部城は永禄年間（1558～1569）に海部友光によつて築かれた。友光の弟に当たる海部親政は、海部城が長曽我部氏に攻められ落城した天正3年（1575年）大阪方面にいて死を免れた人物親政はのち現在の板野郡板野町に移り住んだ。孫の正直が普請工事のため尾張藩に出向いた時、石材を使つた工事の手際の良さが上役から認められ、これが縁で長男の貞政が尾張藩にかかえられた。この貞政の子有方、孫の尚方の墓が、名古屋市内にある海部家の菩提寺福生院の久蔵の墓のすぐ近くで見つかつた。これが決め手となつて海部家と徳島県の海部一族との接点が判明し、与那嶺さんは「海部元首相のルーツが海部城主の分家であつたことは明らか。近く、一連の調査結果をまとめて首相にお送りしたい」と話している海部元首相の実姉で、一宮市の海部事務所をあずかつている、入谷美晴さんは「戦災で系図が焼け、細かいことがわからなかつた。与那嶺さんからは概略をおききしましたが、わが家のルーツが分かり、大変ありがたいです」と喜んでいる。